

文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱(ときょう三組みもの)のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。

ちぢわちょうこうくうしゃしん
千々石町航空写真

うんせんし　まいぞうぶんかざい 雲仙市の埋蔵文化財について

あいのまち　ちぢわちょう　まいぞうぶんかざい
～愛野町・千々石町の埋蔵文化財～



あいのまちこうくうしゃしん
愛野町航空写真



ながさきけんうんせんしきょういくいいんかい
長崎県雲仙市教育委員会

《愛野町の埋蔵文化財》

愛津遺跡は愛野展望台西側の畠の中にあります。昭和42年にジャガイモ畠の開墾により発見されました。写真は当時見つかった「縄文土器」と蛇紋岩製の「磨製石斧」で、5,000年程前の縄文時代中期のものです。土器の表面には棒状のもので文様が描かれ、紐状の粘土を渦巻状に貼り付けた部分もあります。阿高式土器と呼ばれるもので、粘土と「滑石」と呼ばれる石の粉を混ぜ合わせて作られています。

一般的な土器は「土」を焼き固めて作られていますので、触ると表面はざらざらしています。しかし、この土器は石の粉が多く混ぜられていますので、非常に硬く、表面も「すべすべ」です。

阿高式土器に混ぜられている「滑石」や石斧の「蛇紋岩」は島原半島には無く、西彼杵半島（長崎市や西海市）のものと考えられ、遠い地域の人々との交流も行なわれていたかもしれません。

土器や石斧と一緒に「地面が焼けた痕」も見つかっており、火を使って料理を作った跡の可能性もあります。当時の愛野町の人々の暮らしはどんなものだったのでしょうか。

※文様＝模様



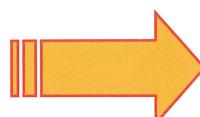
縄文時代中期「阿高式土器」



蛇紋岩製磨製石斧



焼き固めると…



《千々石町の埋蔵文化財》

写真の土器は千々石町の櫛神社付近で発見されたものです。表面にぎざぎざの「山形文様」がつけられています。この文様は、模様を彫りこんだ木の棒を土器の表面に「押し」当てて描かれたものです。木の棒を「押し」当てて土器の表面に「型」をつけることから「押型文土器」と呼ばれる縄文時代早期（8,000年前）の土器です。

土器は収納容器として利用されただけではなく、食べ物を調理する「お鍋」としても使われました。当時は弓矢などで動物を狩り、どんぐりや栗などの木の実などを食料としていました。土器のお鍋は現代のものに比べると、厚く熱効率が悪いので、なかなか温度が上がりません。しかしながら、栗などは、じっくり時間をかけて煮たほうが甘さが増します。土器のお鍋は当時の食生活にマッチした調理具だったのかもしれません。



縄文時代早期「押型文土器」



縄文時代早期「押型文土器」



土器はお鍋としても使います



いろいろな文様



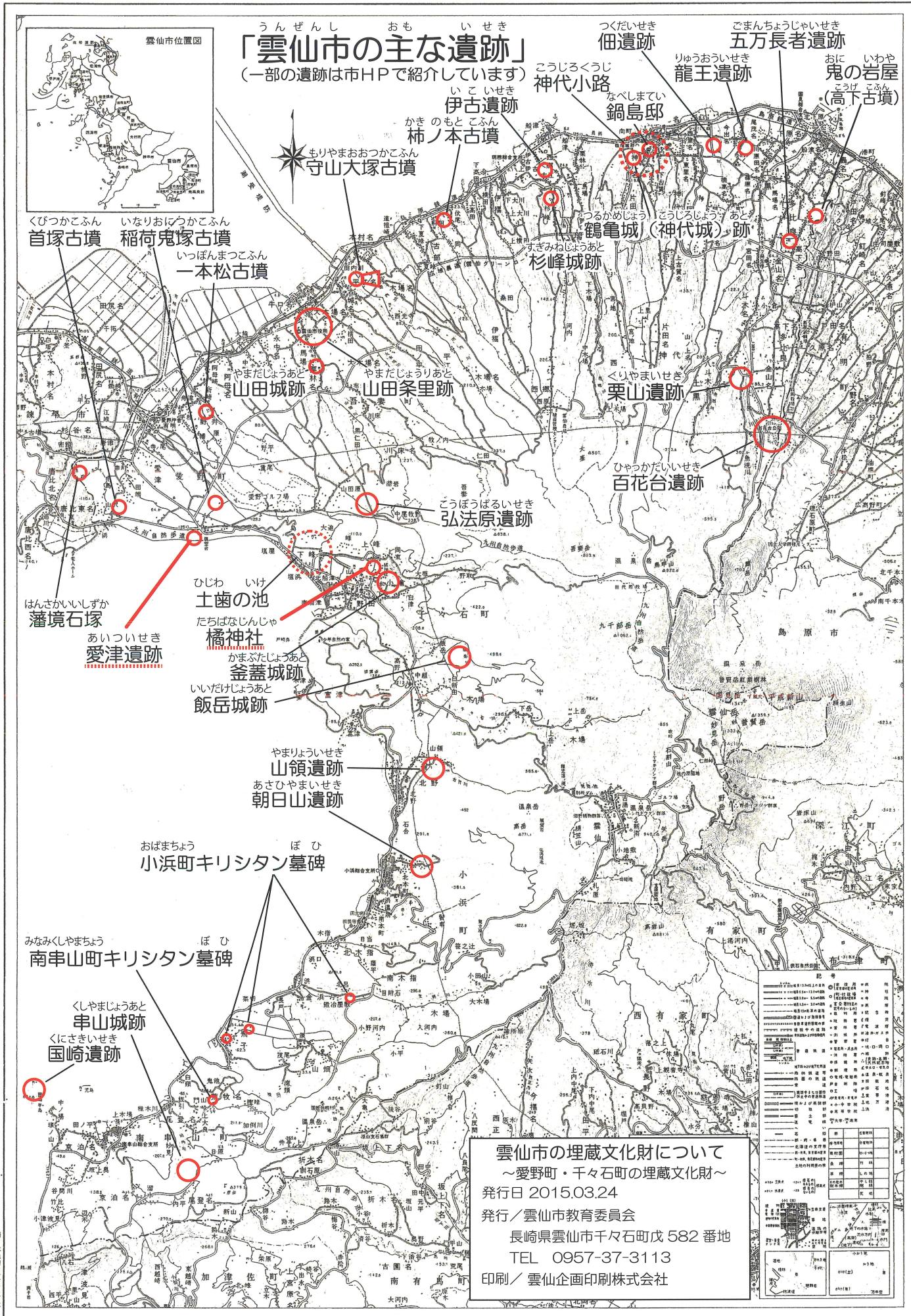
押型文土器には山形のほかに格子目や菱形などの文様があり
ます。写真の3点の土器は吾妻町弘法原遺跡のものです。

雲仙市内にはあちこちに大昔の人々が暮ら
した痕跡が残っています。

見つかった土器や石器はみなさんのご祖先
様が実際に使っていたものかも知れませんよ。
埋蔵文化財は貴重な歴史遺産です。
皆で保護し未来へ残しましょう。

うん せん し かん ない ず
雲 仙 市 管 内 囮

平成十七年十月



雲仙市の埋蔵文化財について ～愛野町・モタ石町の埋蔵文化財～

支野町 下、吉
発行日 2015.03.24

発行／雲仙市教育委員会

長崎県雲仙市千々石町戊 582 番地

TEL 0957-37-3113

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平17九復、第172号)」

1 : 75,000

A horizontal scale bar with numerical markings at 0, 500, 1000, 2000, 3000, and 4000 meters. The bar is divided into smaller, unlabeled segments.